

「準天頂衛星システム パフォーマンススタンダード 測位技術実証サービス編」 について

2014年10月21日
準天頂衛星システムサービス株式会社



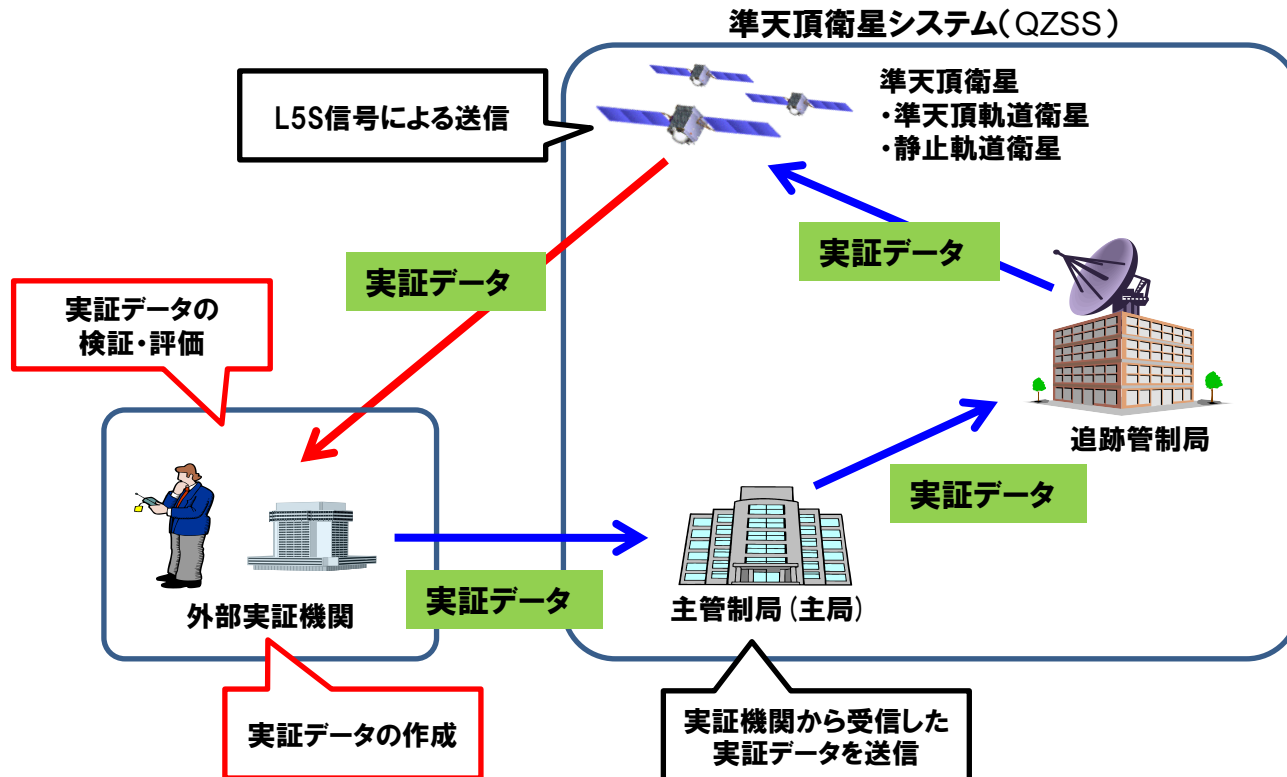
測位技術実証サービス サービス内容

1. 測位技術実証サービス サービス内容



サービス内容

- ✓ 測位技術実証を行う機関(実証機関)は、QZSSの主管制局とオンライン接続することにより、実証機関が生成した高精度測位技術開発に関わる実証データを、準天頂衛星システムを経由して送信することを可能とするサービス。





参加条件

1. 実証内容

- ✓ 新しい衛星測位技術の効果を確認可能な内容であること

2. 計画と結果の報告義務

- ✓ 計画と結果をQSSに報告すること。
- ✓ 可能な限り一般公開すること。

3. 情報の取り扱い

- ✓ QSSとの間で協定を結び、成果の公表／知財の取り扱い／技術情報の取り扱い等について充分、協議すること。

4. 設備／回線費用の負担

- ✓ 源泉データを生成するための設備構築費用は、参加者負担とする。
- ✓ QSS管制局と接続するための回線及び機器費用は、参加者負担とする。



PS-QZSS測位技術実証サービス編の構成



PS-QZSS-TV-001の構成

1. 範囲
2. 関連文書・用語の定義
3. サービス仕様
 - 3.1. サービス範囲
 - 3.2. 精度
 - 3.3. アベイラビリティ
 - 3.4. 継続性
 - 3.5. インテグリティ



サービス仕様

(PS-QZSS-TV-001 3項)

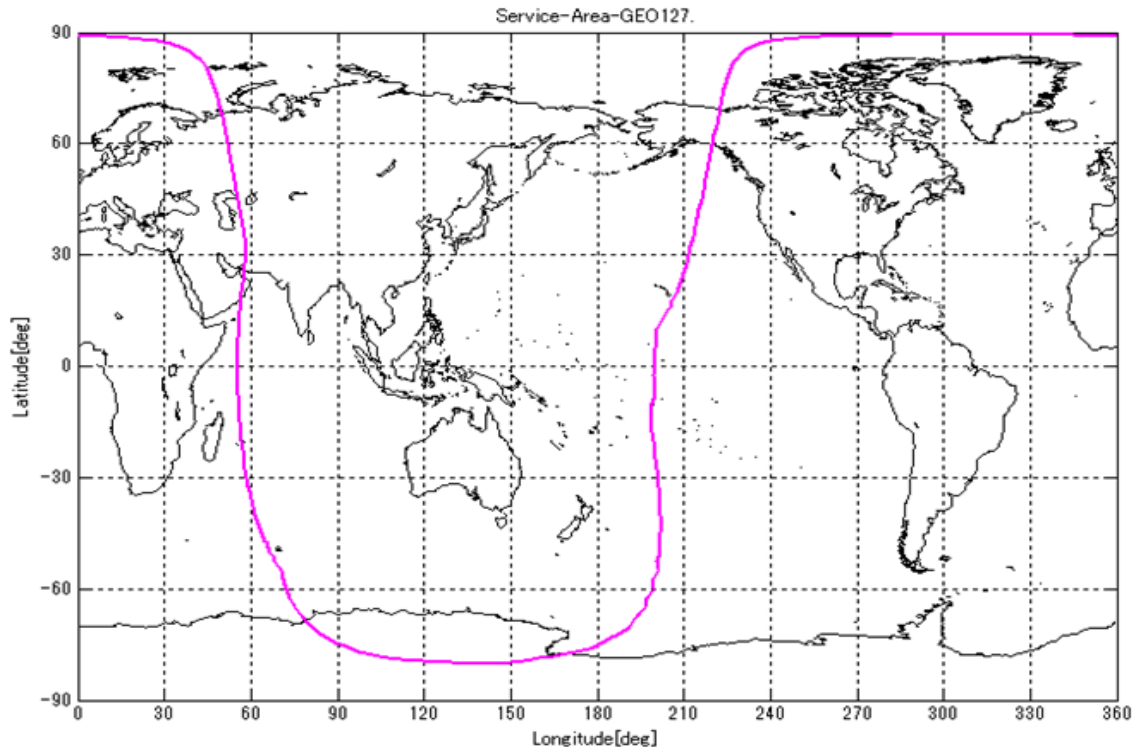
3. サービス仕様／サービス範囲



サービス範囲(3.1.項)

- ✓ 測位技術実証サービスは、地表において1機以上の衛星を仰角10度以上で可視となる範囲にサービスを提供する。

QZS4機のうち1機以上のQZSが可視となる範囲を仰角10度の線によって示した図



3. サービス仕様／精度



■ 精度(3.2.項)

実証信号のため、精度は規定しない。

4. サービス仕様／アベイラビリティ



アベイラビリティ(3.3.項)

- ✓ 衛星1機ごとのサービスアベイラビリティを、1機の衛星が正常なL5S信号を提供する確率と定義する。
- ✓ 測位技術実証サービスでは、実証信号のため性能値として衛星1機ごとのサービスアベイラビリティは規定しない。ただし、以下を目標値として規定する。
 - QZO衛星 :0.97以上
 - GEO衛星 :0.97以上
- ✓ 測位技術実証サービスは、以下のいずれかの状態の場合、L5S信号のサービスが不稼働(サービス中断)であると定義し、それ以外の場合を正常と定義する。
 - CRC異常、または停波による4秒以上のL5S信号の使用停止
 - 災害等による主管制局(主局)の停止
- ✓ コンステレーションアベイラビリティおよび高仰角のコンステレーションサービスアベイラビリティについては、実証信号のため規定しない。

5. サービス仕様／継続性



■ 継続性（3.4項）

実証信号のため、継続性は規定しない。

6. サービス仕様／インテグリティ



■ インテグリティ (3.5項)

実証信号のため、インテグリティは規定しない。